

令和7年度普及指導活動外部評価「講評」

- ・「担い手」の考え方は多様化している。しっかり農業に取り組む担い手が一番大事であるが、従来の兼業農家も担い手である。また半農半Xも担い手として位置付けているところもある。家庭菜園など土に触れたいというニーズはかなりあり、そのような人を増やすのも、長い目で見たら担い手育成の一つになると思う。そのような多様化する考え方の中で、普及としてどの部分の担い手を育成するか、メリハリをつけて取り組んでもらいたい。
- ・「販売額が増加」との発表については、もう少し細かく見る必要がある。販売額＝価格×量。価格が伸びたのか（普及指導によって伸びたのか、物価上昇の流れで伸びたのか）、あるいは収量が増加したのか、それをきちんと見分け、分析することが必要。また販売額からコストを引いたのが、農家の所得。そのコストがどうなっているか、それらの分析をさらに深めてもらいたい。
- ・普及指導なので、栽培技術指導に重点を置くのはわかるが、次の段階に進むには、簿記や会計など経営分析スキル、マネジメントなど組織運営のスキルなども、これからの農業者には必要になってくる。専門家の力も取り入れて、経営体としての発展を促していくことを大切にしてもらいたい。
- ・昨今のコメ問題を含め、一般市民の方は農業問題について誤解しているところも多いと思う。現場の前向きな姿をアピール広報してもらいたい。